

「21 世紀の創造論」—聖書と自然界、二つの啓示より考える—

山本哲也

I 私たちが住んでいるこの世界はいつ始まったのか？

『なぜ何もないのではなく、何かが存在するのか。』M.ハイデガー
考察の前提 今、終末時代 善と悪との大争闘時代

1. 創造論と進化論

A. この世界の起源を考える二つの前提 基本とする考え

- a. 創造主（神）なしでこの世界の起源を考える。世界は自然に偶然に何かのはずみで出来た自然主義的宇宙創生論。物質主義無神論的創生論。進化論で代表される。
- b. 創造主がこの世界を創造された。その事実を創造主（神）は聖書に啓示しておられる。創造論で代表される。

B. 創造主がおられることが好きでない人々の宇宙創生論

- a. 定常宇宙論・・・宇宙には始まりも終わりもない初めから在った。
創造主なしでこの世界を考えられる
- b. ビッグバン宇宙論・・・観測事実は宇宙に始めが在ったと示している。するとどうしても第一原因が必要。しかし科学者は創造主を受け入れたくない。クリスチャンは飛びついた。
最新の観測事実の解釈によれば、第一原因が無くてもビッグバンが起こる。真空にはエネルギー満ちている。この宇宙が始まったことを物理法則で説明できる。創造主は物理学でいういろいろな力の一つにすぎない。創造主の出番がなくなった宇宙創生論。

C. 創造主を信ずる人々の宇宙創生論

特殊創造論・聖書創造論・若い地球創造論 (Young Earth Creationism)

創世記 1, 2 章に書かれている天地創造をその通りに受け入れ信じる

聖書創造論から出てくる大切な教理は、

- a. 先在者・唯一者・全知全能・絶対者かつ善なる愛なる義なるお方がこの宇宙の創造主である。
- b. 創造主は、愛する人間を創造し、彼らが住む場所としての宇宙、地球を約 6000 年前の 6 日間で創造され、7 日目に安息・休まれた。
- c. 美しく良く出来た世界であったが、人間の罪によって失われた。
- d. 創造主は、人間・宇宙の罪を贖うために、ご自分から人間となられて十字架上で罪を贖い、被造物を罪から救われ、復活して天へ帰られた。
- e. その創造主は宇宙・人間の救いを完成し、失われたものを全て回復するために再び地上に再臨される。
- f. 全宇宙に公正公平な正義を確立する裁き（最後の審判）が行われる。
- g. 正しき者は救われて、天国にてイエス様と一緒に永遠に住む。

D. 創造論異変 変な創造論

昔は創造論と言えば、聖書創世記の創造論であったが、最近はいろいろな創造論が現れて来た。

- a. 一日一時代説創造論 創造週の一昨日は、神の創造の働きの長い地質時代の一つをあらわす。進化論的地質学との妥協。
- b. 間隙説創造論 創世記 1:1 と 1:3 の間に長い年月があった。1:2 で最初の創造が善と悪との戦いで

失われ、1:3 で再創造がなされた。

- c. 枠組み説創造論 創造週の一日一日は、神の創造の働きをセットとして示し現したものである。それぞれ長い年月・時代かかった創造の業をモーセには一日一日で見せたものである。
- d. 進化論的創造論・漸進的創造論 創造主なる神はこの宇宙・地球を長い時間をかけて進化させ、その上に生命を創造なさり、その生命を人間にまで進化させ、その人間に魂を入れて霊的存在とした。
- e. 古い地球創造論 (Old Earth Creationism) 初めのもの、宇宙と生命を創造主なる神が創造された。創造主なる神の介入の下、長い年月をかけて現在の世界・人間が出来た。その人間に神は魂を入れて霊的存在とした。神の素晴らしい創造の働きを自然科学の成果が示している。
- f. インテリジェント・デザイン説 (Intelligent Design) 知的企画(者)。この宇宙・人間には高度な知的な企画が見られる。自然偶然には出来上がらない。卓越した知的企画者が存在する証拠を科学が証明する。
- g. サムシング・グレート説 (Something Great) 偉大なる存在者がいて、人間わざでは出来ないこの精緻な宇宙・人間を作り出した。

(これら f, g の考えは、この世界・宇宙・生物・人間は自然偶然には決して出来ない。偉大な全知全能の存在がそれを成した。人間の学問的な成果はそれを示し証明している。知的企画者や偉大な存在が人間にそれを解明するように教え導いている。聖書の教えと現代科学の成果両方を受け入れている。)

本来聖書から出て来た創造論が、無神論や聖書を無視した思想や科学の成果と折衷・妥協した創造論へと姿を変えて来た 現代の欺瞞である。はっきり分かることは罪の問題・イエス様による救いがないことである。

E. 聖書から出て来た正統創造論を特殊創造論や聖書創造論と呼び、聖書に反する創造論と区別する。 それではその区別の要点は何か

◎創造主を神とするか 否か 礼拝の対象なる真の神は創造主のみである

エレミヤ書 10 : 11 創造主だけが真の神 その他は全部偶像の神である

◎神の御子イエス・キリストによる罪の贖いが必要か 否か

使徒言行録 4 : 12、イザヤ 43 : 11 イエス様だけが救い主である

◎6 日間の創造 第 7 日目を創造の記念日安息日とするか 否か

1 日 24 時間の 6 日間で全宇宙を創造し、第 7 日を聖として休まれた

出エジプト 20 : 8～、申命 5 : 12～、黙示録 14 : 7～

◎聖書の愛の神を信じるか その神と共に過ごす永遠の命を信じるか 否か

ヨハネ 14 : 1～ あなたがたは心を騒がせ無いがよい 神を信じまたわたしを信じなさい… イザヤ 40 : 27～ あなたは知らなかったか あなたは聞かなかったか…イザヤ 43 : 1～ 恐れるな わたしはあなたをあがなった わたしはあなたの名を呼んだ わたしはあなたの救い主である

2. いろいろな創造論の比較

	特殊創造論 聖書創造論 若い地球説	無神論的創造論、漸進的創造論、 間隙説、一日一時代説、枠組み説、 インテリジェント・デザイン説、古い地球説、サムシング・グレート説
創造主	唯一の創造主がおられる	いない いてもあまり主体的には働いてはいない
創造	24 時間の一日で六日間	進化論的考えを受け入れる 長い時間かかる 現代の物理学・化学・

	第七日目安息日	生物学・地質学・天文学の成果を受け入れる
墮罪	聖書の通り信じる	進化論で生物・人間は向上進歩する ある説では道徳・霊性を神から受ける
贖罪救い	神の御子イエス・キリストによる救い	神の子による救いの必要はない 自分自身が救う ヒューマニズム 人間至上主義 人間は向上する
終末思想	世は終末をむかえている 全ては回復される	終末はない 永遠に向上する
審判	全ての被造物に公平な審判が下される	審判の必要ない 人間は向上進歩する

II 天地創造の一週間

1. 序

創世記には、人間が生活しているこの世界の起源が記されている。

創造主、唯一 先在 万能 全知 全能 絶対者なる神は、愛する人間が住む場所・環境として、宇宙、地球、生物を創造された。

2. 一日（日壺）

創造の働きの初めの日に、創造主は人間の住むべき場所として、物質界である宇宙を、水を基にして創造された。

まだ形もはっきりせず生物の姿もない地球は、深い水に覆われて、闇の中に浮いていた。神の聖霊はそれらの上を覆っていた。

「光あれ」との御言葉によって、宇宙の星々は光を発した。

水で覆われている地球に一番近い恒星である太陽からの光が、地球の半面を照らし、光の昼とやみの夜が分けられた。神は光が美しいのを見て、良しとされた。夕があつて朝があつて、壺の日である。

3. 第二日目

神はまた言われた、「水の間におおぞらがあつて、水と水とを分けよ」。

地球全体を覆っていた厚い水の層が、おおぞら（大気）によって、「おおぞらの下の水」（地球の内部や表面の水）と「おおぞらの上の水」（地球の大気圏の外、宇宙空間に拡がった水）に分かれた。

4. 第三日目

神はまた言われた、「天の下の水は1つ所に集まり、かわいた地が現れよ」

地球の表面を覆っていた水の中からかわいた陸地が現れた。一つの海と一つの陸が地球表面にできた。

神はまた言われた、「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」。乾いた陸の上にいろいろな植物がはえてでた。

5. 第四日目

神はまた言われた、「天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、天のおおぞらにあつて地を照らす光となれ」。初めの日に造られたいろいろな天体が、地球上の人間が時を知るためのしるしとなるように、一日や一ヶ月や一年や季節の周期をもって運行するように整え設置された。

6. 第五日目

神はまた言われた、「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」。地球上の水、海や湖、川や沼などに魚を始めとしていろいろな生物が生じて満ちた。また地上や空中には鳥を始めとしていろいろな空中を飛ぶ生物が生じて満ちた。

神はこれらを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥は地にふえよ」。

7. 第六日目

神はまた言われた、「地は生き物を種類にしたがっていだせ。家畜と、這うものと、地の獣とを種類のしたがつていだせ」。地上のあらゆるところにいろいろな種類の動物が生じて満ちて、地上は一遍に賑やかになった。生物は種類にしたがって、それぞれのグループ毎に、はっきりと区別されて生まれた。

神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」。創造主の神は、被造物たちが楽しく協力して喜んで生きることによって、創造主に感謝しその聖名を賛美するやうにと、造られた生物たちの世話をし、治める人間を創造された。人間は、霊性においても、知性においても、肉体においても、創造主に似てその御性質を受け継いでいた。最初の人間アダムとエバは、創造主に造られた喜び・幸福を言い表し、いつも聖名を賛美し感謝を捧げていた。

神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。

神はまた言われた、「わたしは全知のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となるであろう。あなたは地のすべての獣、空のすべての鳥、地に這うすべてのもの、すなわち命あるものには、食物としてすべての青草を与える。」アダムとエバが住むやうにと与えられたエデンの園は、美しく心地よく最高の環境で、必要なものはすべて供えられていた。

8. 第七日目

こうして天と地と、その万象とが完成した。神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。神はその第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終わって休まれたからである。

9. これが天地創造の由来である。

創造主なる神は、共に語り合い、喜び合い、向上し、成長し、感謝しつつ過ごす友なる存在である人間を

創造し、その人間の住む環境としてこの宇宙・地球・生物を創造されたのです。創造主と人間の喜びの交わりのその時・その日である第七日安息日の巡りのしるしに合わせて、一日 24 時間の 6 日間で、創造の業をなされたのであります。これが天と地の創造の由来です。

Ⅲ 二つの創造物語があるのか 「1: 1~2: 4a」と「2: 4b~2: 25」

1. その違い
2. その解釈
3. 結論 二つの天地創造物語は、一つの物語のそれぞれの側面である。前者は、創造の時空的秩序の視点から書かれ、後者は創造されたもののテーマごとの視点から書かれている。何の矛盾する処も無い。

Ⅳ 天地創造からの教訓

テモテへの第二の手紙 3: 16 「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」【新共同訳】

申命記 29: 29 「隠されていることは、私たちの神、【主】のものである。しかし、現されたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。」【新改訳改訂第3版】

使徒行伝 17: 11 「ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受けいれ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。」【口語訳】